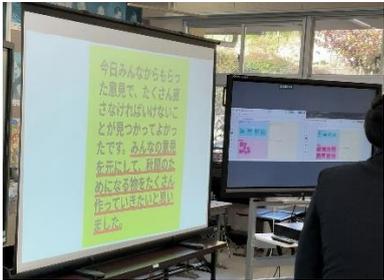


〈令和4年度 ICT活用促進プロジェクトモデル校事業・学力向上実践推進校 安中市立秋間小学校〉

学年・教科：4年・総合的な学習の時間 単元名：「つなごう命～秋間防災プロジェクト～」
 ねらい：「考えるための技法」である思考ツールを活用して、地域の方や保護者、校長先生からもらった意見を整理・分析して、課題の解決に向けた改善策を考えることができる。

教師の発問、児童の反応 ★ICTの活用	学習の様子
<p>1 前時の学習を振り返るとともに、本時のめあてをつかむ。(5分) ★前時の振り返りを Jamboard で確認し、本時の活動への見通しをもたせるとともに、情報を整理・分析する必要感を感じられるようにする。 T：自分たちの発表を更によいものに改善するためには、どうしたらよいでしょうか。 S：KPTを使って、分析する。 ・単元の課題を再確認することで、探究活動の目的や相手に対する意識を高める。 T：そのときの大切なポイントは何でしたか。 S：秋間の防災のためになっているか。 S：相手に伝わる発表になっているか。</p> <p style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 5px;"><めあて> 秋間の防災のためになるように、自分の発表を改善しよう。</p> <p>2 個別に自らの課題に対する意見を整理・分析する。(10分) ★校長先生・学校運営協議会委員の方からの意見を整理した Jamboard を基に、ポイントごとにP(問題点)に対するT(改善策)を分析する。 S：「文字が多くてわかりにくい」のなら、図やイラストを入れて、文字を少なくしよう。 S：「秋間のためになっているか」についての問題点は、改善策を考えるのが難しいな。 S：「秋間の人に合っている避難所」って、どうしたら分かるんだろう。友達に聞いてみたいな。</p> <p>3 個々の1番悩んでいる問題点に対して、班で意見交流し、改善策を検討する。(20分) ・意見を交流することで、多様な情報に触れたり、異なる視点から検討したりできるようにする。 ・話し合いを円滑に進めるために、国語で学習した話し合いの仕方を活用し、司会者・記録係等の役割を設定する。 S：「怪我の手当の仕方を実際に試したい」について、どんな改善策がありますか。 S：〇〇さんは「△△なときは、～したらいい」とまとめてあって、分かりやすかったよ。 S：でも、そうやってまとめても、見た人は実際に試すのは難しいよね。 T：見た人は怪我の種類が多すぎて、どれを試したらいいか分からなそうだね。 災害のときに起きやすい怪我って、どんな怪我なのかな。 S：たぶん打撲や切り傷が多いと思います。 S：それなら、起こりやすい怪我について手当の仕方を動画にしたら、実際に試せるんじゃないかな。 S：なるほど。それを改善策にしたらよさそうだな。</p> <p>4 交流で出された意見を整理し、個人で改善策を再度整理する。(5分) ・記録係が記入したメモを参考にKPTを再度整理することで、問題点を多面的に分析し、改善策を考えられるようにする。 S：災害のときに起きやすい怪我を調べたら、秋間の人のためになるな。 S：自分ではどう改善したらいいか分からなかったけど、班の友達の見意見を聞いて参考になったな。 S：これでよりよい発表にできそうだ。秋間の人たちを災害から守れそうだな。 S：駅でパンフレットが配布できれば、秋間の人だけでなく、他の人も守れそうだ。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、次時に取り組むことを確認する。(5分) ・本時の学習について視点をもって振り返らせることで、めあてに対する達成度や進捗状況を確認するとともに、次の授業への見通しをもたせる。</p>	    
<p style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 5px;"><振り返り> (視点：次時に頑張りたいこと) 私が相談したいことをみんなが真剣に考えてくれて、改善策が考えられた。作ってあるスライドに足りないことを地域の方に聞いたり、災害が起こりやすい天気を調べたりして、もっと秋間の人たちに分かりやすくできるように頑張りたい。</p>	